

## 編集後記

10年一昔というが、日々の業務に追われていると、長い時間で物事を眺めるということを忘れがちである。各人が長く携わってきた業務に関しては10年など大した期間ではないかもしれないが、大学全体としてみるとその内容は多岐に渡り、様々なことが起こっている。わずか10年の間の本学のことを振り返ってみても、その全貌について言えるという人は意外と少ないのではないだろうか。開学10周年誌編纂の際の編集責任者であられた原田一典名誉教授が「10年に一度は歴史をまとめておかないと、分からなくなることが出てくる」と仰っておられたことを思い出す。大学の構成員は漸次入れ替わるが、その時々各人が行ったことが歴然たる事実として残り、大学の歴史を形作ってゆくということを改めて認識させられた。

開学30年を経て本学は国立大学法人に移行するという明治時代に国立大学が始まって以来の大改革の時代に入って行く。日常的な業務を大きく変える改革というものは、その時点での評価は様々であるが、時間が経ってみて、初めてその功罪が明らかになるものもある。特に痛みを伴う改革というのはそうであろう。国立大学法人化という大改革に携わっている個々の構成員の日々の業務の成果は、次の10年で明らかになるのであろう。

最後になったが、発刊が大幅に遅れてしまったことをお詫びする。依頼原稿をお寄せ戴いた記念フォーラムの演者の方々、各部局の沿革の原稿を担当された方々、下記の30周年記念事業実行委員会および研究フォーラム編集委員各位、その他当方からの問い合わせにお答えいただいた各部局の方々、ならびに栃谷泰文前図書館情報課長、小川聡図書館情報課長始めご助力戴いた図書館情報課の方々にご心よりの謝意を表し、編集後記とする。

(開学30周年記念事業実行委員会 記念誌担当 坂本尚志)

平成16年度研究フォーラム編集委員

小川勝洋 (図書館長/委員長)

立野裕幸 (生物学/副委員長)

吉田成孝 (解剖学第一講座)

廣川博之 (経営企画部)

新開淑子 (看護学講座)

30周年記念実行委員会(記念誌担当)

高橋雅治 (心理学)

若宮伸隆 (微生物学講座)

野村紀子 (看護学講座、H18退職)

松野丈夫 (整形外科学講座)

皆川智映 (看護部6階東NS)